

はじめに……生きるとは**賽**を振る「1」

この本の最初のページにあるサイコロの目はいくつでしょうか？

はい、「1」と答えた人がほとんどですね。

では、それは、本当に正解なのでしょうか？

どういうことか？ 次の写真を見てみてください。

1の目が上部にありますね。

ところが、見る方向によっては、必ずしも「1」だけが正解とは限らないのです。わかりやすく説明しましょう

サイコロの1の目をあなたの友人に見せて、「この数字はいくつですか？」と質問してください。「1」という答えが返ってくるはずですよ。

しかし、友人には1の目が見えています、あなたから見たら、反対側の6の目が見えますね。

さらに言うと、2の裏側は5、3の裏側は4ですね。

このように、すべての物事には対称となる「裏側」があるのです。

「1」が上になっても、反対側の「6」も必ず存在している。

「1」も「6」も同時に正解、と言えるのです。

ひとつの物事の裏側には、必ず別の見方も存在する。必ず別の考え方もできる。

この原理を私は、「二天地六の法則」と呼んでいます。

人間は誰もが、毎日、何十回も何百回もサイコロを振っています。生きるために行うすべての行為は、「サイコロを振る」ことと同じことなのです。

そして、私たちはサイコロの出た目によって、一喜一憂しています。ほとんどの人が、たったひとつの目しか見ていないのです。

私たちはよく、「失敗した！」と言って嘆くことがあります。しかし、それは、本当に失敗なのでしょうか？ サイコロの目には「裏面」が必ずあるのです。

たとえ失敗したと思っても、それはたったひとつの目が出ているに過ぎません。あ

なたから見たら失敗かもしれませんが、反対側から見ている人にとっては「大成功」と言える出来事かもしれないのです。

あなたが短所だと思っていることでも、逆の言い方をすれば、長所になる可能性だつてたくさんあるのです。

このように、本書では、もの見方や考え方を一八〇度変え、失敗を成功に、短所を長所に、悩みを笑顔に変えていく「一天地六の法則」というものをお伝えしたいと思います。

申し遅れましたが、私の名前は「カカトコリ」。

変な名前ですよね？

もちろん本名ではなく、ハンドルネーム（インターネットなどで用いるニックネームのこと）です。どうやらネット上では本名よりもこちらの名前の方が有名なようです。

私は岡山県で会社を経営する傍ら、メールマガジンを発行し、様々なクライアントや読者とともに、みんなが幸せになる方法を模索してきました。

もともとは全国を飛び回る社員のために始めた朝礼代わりのメルマガでしたが、口コミで評判が広がり、その人気ぶりからメールサーバーを六回もパンクさせたこともあります。

集まった仲間たちの中からは、めざましい集客に成功した起業家も生まれましたし、ベストセラー作家もたくさん出ました。成功する人たちの中から、また新たな成功を生むヒントがたくさん報告されています。

本書は、このメルマガで書いたことをヒントに構想したものです。

成功をお裾分け^{すそわ}して、みんなが幸せになれたらいい。

私はそう考えてこの本を書くことにしました。

本書が、あなたが内に秘めているたくさんの可能性に気づき、ほんの少し見方を変えて、ビジネスでも私生活でも、幸せをつかむための格好の水先案内となったら、著者としてこれ以上の喜びはありません。